

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っている事、負担に感じている事等を具体的に書いてください。

- ・他の人の部屋にいつの間にか入室している為、早くに動きをキャッチ出来ないことが多く、結果的に破損行為を未然に防止することが出来ない。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・話し好きで、内容自体は継ぎ接ぎだが、Aさんの生き方が表れている言葉が出て来ており、周囲の利用者を楽しませる和やかな雰囲気を出し出す。持ち前の明るさを毎日の生活の中で少しでも多く持つて欲しい。

【質問】

Aさんの生き方が表れている言葉とは、具体的にどのような発言ですか？

【回答】

仕事上の思いや、仕事仲間の様子等を話す時の表情や表現から、自分の手を真っ直ぐに伸ばして、「おれはきちっと並べる。」といった言葉をよく発言する。そして、仲間、特に若い人の面倒を、上司らしき人より頼まれてみることもあるといった様子。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)

- ・気の合う利用者との楽しい会話は、時を忘れさせているかのようなのである。
- ・双方の話す言葉を忘れない、あるいは思い出すという相乗効果があるのではと考える。
- ・カラオケも好むため、余暇活動として取り入れて心の安定を図りたい。
- ・体調の良い時は、無理のない程度にフロアーのモップ掛けの手伝いをしてもらう。
- ・Aさんの馴染みの生活を取り入れて、心の安定を図れたらと思っている。

【質問】

気の合う利用者とは、性別や生活など、どのような特徴があると捉えていますか？

【回答】

話し好きで、Aさんの話に対して上手につなぎ合わせることの出来る女性。(今のところ)

【質問】

Aさんにとっての馴染みの生活とは、どのような生活だと捉えていますか？

【回答】

運送業での仕事等、程々の仕事をしながらも一徹なところもあるが、仲間を気遣い、カラオケで歌ったり(家族とも)踊ったりという楽しい生活の中で家族を守っていた。

## C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・自分の話し相手である妻は、何処にいるのか捜している感じで歩いている。
- ・スプーンを半分に折り曲げてうなだれている。
- ・「おれ、何かしたか?」「何もしてないだろ。」
- ・「働くことが好きだ!」
- ・脱輪事故の話に対し、手で顔を被い「あら～!なんてこと。」嘆いた言葉を発する。
- ・持ちにくいテーブルを指して、職員の手を引っ張って、「ちょっと持ってくれ。」と大型ソファを一人で夜引きずって動かしている。
- ・水道の本体を外そうとしたり、取り付け部品を外してしまう。「触ったらいかん。」
- ・モップでフロアを黙々と拭いている。

### 【質問】

あなたは、Aさんにとって妻はどのような存在だと思いますか?

### 【回答】

心筋梗塞の手術を受けて、1ヶ月以上寝泊りでAさんの傍で看病した妻への感謝の気持ちは今でもある。言葉としての表現は出来ていないが、その雰囲気から十分理解することが出来た。故に妻からのどんな頼み事でも受け入れて、一生懸命にするのではないかと思う。

### 【質問】

「おれ、何かしたか?」「何もしてないだろ。」と発言する時、その言葉にはどのような意味が込められていると思いますか?

### 【回答】

生真面目で正義感の強い気持ちから、自分を信じて欲しいという意味。

## D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましょう。

- ・常に妻が傍にいて見守っていたから、安心して働きに行くことが出来た。  
交通事故も起こさず、運送業ができた。  
だから家にいる時は、妻から修理を頼まれれば率先して直した。

### 【質問】

Aさんにとって、妻からの頼まれごとを率先して行ってきた意味とは何だと思いますか?

### 【回答】

の回答を含めて、妻を安心させてやりたいという気持ち。一家を支える者としての義務感。

## E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんな事だと思えますか？

- ・自分は何もしていないのに、すぐ、自分の名前を呼ばれるのは何故なんだ。
- ・自分が食事をする時、いつも妻がいて話しかけてくれた。
- ・働きたいので何でもさせて欲しい。

### 【質問】

Aさんにとって、働くことの意味とは何だと思えますか？

### 【回答】

家族を守るということ。

## F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつか書き出してみましょう。

（家族の希望でもある、孤独にならないように）

- ・Aさんの持ち前の話し好きで楽しい雰囲気、上手に引っぱり出している気の合った利用者を含めて、Aさんらしい当たり前の生活が出来るよう支援出来たらと思う。
- ・地域に出て、カラオケ喫茶などで歌って来ることも出来れば。

### 【質問】

家族が希望する、孤独にならないとは、どのような関わりだと思えますか？（例えば家族としての関わり、利用者やスタッフ、或いは地域の関わり）

### 【回答】

利用者とは馴染みの環境の中での関わりであり、スタッフとは信頼関係の上に成り立つ寄り添いの関わり。

### 【質問】

Aさんらしい当たり前の生活とは、どのような生活だと捉えていますか？

### 【回答】

軍律厳しい軍隊生活を経て、生来の話し好きで、生真面目さから、毎日の日課としての佛前の水替等による信心の深さといった精神的な環境を大切にしながら、家族と共に生活を送ること。

### 【質問】

妻、あるいは長男やその家族と面会や外出の頻度、その時のAさんの様子、満足度はいかがでしょうか？

### 【回答】

妻は月に1～2回の面会がある。

在宅時代にAさんが頻繁に街のほうへ出掛けて、搜索した苦勞も表れるようだが、そうしたことに対する愚痴めいた発言は聞かれない。また、入院した際もずっと付き添っており、妻もAさんのことを大切に想っているようだ。

Aさんは、家族の面会時にはすぐに家族の認識が出来る時と認識するまでに暫く時間が掛かる時があ

るが、認識できると“溶けていくような”表情となり、とても嬉しそうな表情をする。

**【質問】**

これまでの回答では、スタッフのAさんに対するアプローチが多かったように見受けられましたが、Aさんと家族をつなぐようなアプローチはしていますか？あるいは今後、そのようなアプローチを検討していますか？

**【回答】**

面会時には、リビングや個室でゆっくりと家族で過ごせるように配慮している。

スタッフとしては、自宅への外出や外泊も望むのだが、妻が在宅時代の苦勞（外に出掛けること）を思い出し、それに自分一人で対応できるかどうかの不安が強いようで、なかなか実施に至っていない。

**【全般的な質問】**

困難さを感じている事例を出していただいた後、ワークシート・思考展開シートを記載していただき、また今回、様々な質問をさせていただきましたが、このプロセスの中で新たな気付きや再度確認出来たこと等ありましたか？

**【回答】**

家の修理をしなければという思いから取る行動に対して、少しその動作をするところをみてから、あるいは取り掛かろうとし始めようとした時に、「そこは昨日修理してもらったので助かっているわ。」とお礼を言うことによって、「あっそうだったか。」と返し、「それなら今度だね。」と気持ちを変えられるようになっている。

Aさんの名前を頻回に呼ぶのではなく、そっと動きをみて行動を共にする。そしてしばらく歩いた後、ソファでゆっくり休み、お茶などを飲んでもらい、色々と話をする関わりを持つようになり、信頼関係が徐々に出来上がって来ている。

**（助言者の考察）**

この事例からは、Aさんが事業所内の物品を破損させる行為について、その行動自体を問題視するのではなく、Aさんの抱く思いも含めた背景要因の理解に努めながら対応しようとする様子が窺えました。

事例提供者は、まず実行可能なこととしてスタッフのAさんに対する支援の見直しから行い始め、また今後の展開として、Aさんの思いを中心としながら、家族の思いを踏まえつつ、家族の不安や負担感にも配慮したアプローチを検討し、ゆっくりと（スタッフも楽しみながら）進めていこうという方向性を持っていました。

人とは常に人と人との関わり、関係性の中で存在しています。介護者側の論理でケアを進めていくのは論外ですが、逆に本人を中心に据えるものの、周囲の人々の思いやペースが無視されたり、犠牲の上で成り立つような支援の在り方も成り立ちにくい、あるいは継続しにくいと思われます。

本人の思いを大切にしながらも、関係する人々との関係調整、環境調整をしていくのかを考える貴重な事例だと思います。

また今回、困難さを感じていたAさんへの支援の在り方について、事例としてまとめ、ワークシートや思考展開シートへの記入により、現状を冷静に見つめ直せ、また多角的視点から分析出来たとの感想がありました。今回は事例提供者一人で取り組んでいただきましたが、今後はスタッフと共に関わることにより、スタッフ自身のスキルアップのツールとしても利用したいとのことでした。